

横芝の碑

(その八十九)

幻の街道？に建つ

庚申様

横芝町横芝の俗に上町と呼んでいる一帯は、金比羅様の門前町として開けた町並です。

金比羅様の正門、といひましても、横芝町寄りの玉垣の辺りから金比羅様と反対に入る道路は、松尾町八田及び横芝町長倉等の集落に通じています。この道路を入るとすぐ右側に三基の石像が建っているのが目に付きます。一基は何かの供養塔で、上部が烈しく欠けていて何の供養塔か、また建立の年代も判りません。庚申塔の二基は安永七年(一七七八)のもの、寛政十二年(一八〇〇)建立のものです。

近くの人々は「この道路は今みたいに広くはなく、本当に狭い路ではあったが、昔から八田や長倉方面からの人々が金比羅様にお詣りに来るには、この路を通って来たということだ。庚申塔や供養塔は、もつと国道沿に建っていたが路を改修したり、交通が烈しくなり庚申様等が壊されては困るということ等から心ある人々が相談してこの場所に移して祭ったもので

ある」と話をしてくれました。

社伝によりますと「坂田城主三谷因幡守が讃岐の金比羅様の神霊を勧遷し、城の南方に一堂を建立して戦勝の祈願所としたのがこの金比羅様の創まりだということだ。その中に庶民の中にも次第に信者が出来て来ました。ところが天正十八年(一五九〇)に坂田城の落城と共に金比羅様の社殿も兵火にかかって焼失してしまいました。其後、寛文五年(一六六五)には八田の信者が、また、天保十



▲ 一部が欠けてしまった庚申様

四年(一八四三)には長倉の信者がそれぞれ社殿の造営及び改築を行う等のことがあった、今日に及んでいる」ということです。

前にこの稿で、桜前から長倉を通って金比羅様に通ずる幻の街道をご紹介したことがあります。その中で、長倉までは、道標や路傍の庚申様等でそのコースを予測してご紹介申し上げましたが、長倉からのコースについては、何も申し上げることが出来ず、いままが、社伝による長倉、八田の人々の信仰、そしてその人達が金比羅参道として通っていたということや、庚申塔や供養塔が一緒にこの道路の角に祭られていたという地元の人達が語ってくれた話等、そうしたことを思い合せますと、この庚申塔が建っている道が、幻の金比羅街道の出口(入口?)と考

えても差支えないと思われるのです。

◎写真は、一番こちらが、供養塔で、..... 供養塔、..... 清左エ門、..... 行四人と刻まれているが、点線の部分は、上部が欠けているので、判読できません。中央の庚申塔は、青面金剛象の他に安永七戌戌(つちのえいぬ)年七月、向う側の庚申塔は、青面金剛像の他に寛政十二年庚申(かのえ

さる)とそれぞれ刻まれています。幻の街道については、この稿を仮定のもとに、更に調べ、何時かご紹介したいと考えております。

なお、本稿取材に当り、近くにお住いの三浦さん他の方がたのご協力をいただきました。

町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿

【案内略図】

